

平成23年 経済委員会 開催状況（経済部総務課）

開催年月日 平成23年11月1日

質問者 自民党・道民会議 吉川 隆雅 委員

答弁者 経済部長、経済部次長、企画調整担当課長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 ほっかいどう産業振興ビジョンについて (一) ビジョンの名称等について (吉川委員) 前回ビジョンとの違いについてお伺いいたします。 前回のビジョンは、その前の、その更に前の「ほっかいどう産業活性化プログラム」に加えて、地域経済の活性化に不可欠な一次産業の振興、産学官・産業間の連携、経済活性化を支える基盤づくりに関する施策等も盛り込みまして、全ての産業分野を対象としたより総合的な取組として策定すると述べられており、従って名称も「北海道経済活性化戦略ビジョン」というふうにしたものと考えておりますけれども、後継である今回のビジョンを「ほっかいどう産業振興ビジョン」と称するのは、何故なのか、お聞きいたします。また、ビジョンの目指すところ、取り組みの方向がこれまでのビジョンと異なっている分があるのか、併せて、お伺いをいたします。</p> <p>(二) 前ビジョンの評価について (吉川委員) それでは、前ビジョンの評価についてお伺いしたいと思えます。素案の2ページでございますけれども、策定趣旨の中で、前ビジョンに基づいて様々に取り組んできた結果一定の成果が見られたものの、「依然として全国に比べて公的需要への依存度が高いことなどから、力強い自立型の経済産業構造を実現するまでには至っていない状況にあり、道央圏と他地域との活力の差の拡大といったことも懸念される」としており、また7ページの検証によれば、その原因は「平成20年の世界的な景気後退の影響や厳しい本道の経済情勢」の反映にあるというふうに分かっているように思います。</p> <p>また、9ページの「地域課題解決に向けた主体的な取組の胎動」では、全国を上回るペースで人口減少や高齢化が進展していることに伴って、地域活力の喪失、過疎化やコミュニティ機能の低下、若年労働力や購買力の流出、生産活動の縮小、買い物弱者の増加など様々な課題に直面をしており、「このままでは地域がますます疲弊し、負のスパイラルへ落ち込む懸念がある」と極めて冷静かつ淡々と現状を分析しているのではないかと感じます。</p> <p>前回ビジョンに基づいて道が取り組んできたことが何故実を結ばなかったのか、道の取組として不十分なところはなかったのか、そしてその結果について道としてどのように受け止めているのかをお伺いをいたします。</p>	<p>(大崎経済部次長) ビジョンの名称等についてでございますが、このビジョンの目的は、前ビジョン、「北海道経済活性化戦略ビジョン」と同様に本道経済の活性化を目指すものでございまして、そのための手立てとして、重点的かつ集中的に取り組む産業振興施策について、体系的に整理することとしておりますことから、名称をわかりやすく表すため、「ほっかいどう産業振興ビジョン」としたものでございます。</p> <p>また、本道経済の現状は、前回のビジョンで目指した力強い経済構造の実現などの目標に向けまして、道半ばといった状態にございますことから、本ビジョンにおきましては、前回ビジョンの取組を継承・発展させるとともに、経済社会環境の変化を的確にとらえて様々な産業群が重層的に展開する持続可能な自立型経済産業構造への転換に向けまして、取組を一層加速させていくこととしていただいております。</p> <p>(経済部次長) 前ビジョンの評価についてでございますが、道としては、これまでもものづくり産業や食関連産業の振興などの取組を進めてきたところであります。この間、公共事業の大幅な削減や、平成20年の金融危機による世界的な景気後退といった大きな外的要因もあったわけですが、こうした経済情勢の変化に対しまして、中小企業支援や企業立地促進などの効果的な取組が必ずしも十分ではなかったことから、結果としまして、目標を達成した指標が半数を下回るなど、力強い経済構造の実現といった、目標には至らなかったと認識しているところでございます。</p> <p>本道経済の活性化は、引き続き、道における最重要課題のひとつでございますから、近年の経済社会環境の変化を踏まえながら、本道経済を支える産業の振興に向けて、取組を一層加速してまいりたいと考えております。以上でございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 道の他計画との関係について (吉川委員) それでは、道の他計画との関係についてお伺いいたします。14ページで他計画との関係については、第一次産業の振興に関係する計画のほか、「建設産業支援プラン」「雇用創出基本計画」など関連する分野の計画などと連携をしながら取組を推進すると述べておりますけれども、前回のビジョンが「全ての産業分野を対象とした総合的な取組」として推進をされているが、今、道がおっしゃって下さいましたような様々な事情があったにせよ、十分な成果が得られなかったことを見れば、道の各計画が相互により一層密接な関係を維持していかなければならないというふうに考えます。 これについてどのように連携をし取り組んでいくお考えなのか、伺います。</p>	<p>(松浦企画調整担当課長) 道の他の計画との連携についてでございますが、本ビジョンの実効性を高めるためには、施策の展開にあたりまして、各種計画に位置づけられている関連施策が総合的に実施されることが重要と考えております。 このため、例えば、食の総合産業化という観点から6次産業化の推進を盛り込むなど、一次産業を含む施策の連携を図っていきますとともに、本年度から「食産業立国の推進」など、新生北海道戦略推進プランにおける5つの戦略を重点的に進めるために設置されました庁内横断的な推進組織でありますタスクフォースや、既存の地域政策推進会議などの効果的な活用、食や観光分野などにおけます兼務職員との情報の共有化に努めながら、各種計画間の調整や施策の連携を図ってまいりたいと考えております。</p>
<p>(四) 施策展開の指標について 1 指標の数値の根拠などについて (吉川委員) 少子高齢化など地域づくりに関する施策についても大変重要な関連性を持っていると思いますので、しっかりと連携してやっていただきたいというふうに思います。 続いて指標の数値、いろいろ示されていますけれども、その根拠についてお伺いをいたします。15ページから施策展開の中で、目標の数値、指標が示されておりますけれども、この指標の数値はどのように設定をされているのでしょうか。 例えば、加工組立型工業の出荷額等では、平成22年度に7793億円となっているものを、26年度までに8900億円まで拡大するとしておりますが、この数字はどのように算定をしたものか、お伺いをいたします。</p>	<p>(企画調整担当課長) 指標の数値の根拠についてでございますが、本ビジョンでは、経済効果の分析・評価が重要と考え、施策の成果が表れる指標を設定することとしておりまして、その目標値は、「ほっかいどう未来創造プラン」の目標値ですとか、過去の実績などを参考に、算出しているところでございます。 ご指摘の「加工組立型工業の出荷額等」の目標値につきましては、施策の効果の反映により、既存の事業所に、立地企業により見込まれる事業所の増加を加えまして、工業統計調査から推計をしたものでございます。以上でございます。</p>
<p>2 指標の意味について (吉川委員) それでは続いて指標の意味についてもお伺いいたします。3ページのビジョン策定趣旨の中で、ビジョンの目指す姿について「経済波及効果の高い様々な産業群が重層的に展開する持続可能な自立的経済産業構造」を目指すとしておりますけれども、この目指す姿の実現状況を見る上で、施策展開に示す各指標がどのような意味を持っているのか、各指標が達成されたときに、その目指す姿が実現されたというふうに見ることができるのかどうか、お伺いいたします。</p>	<p>(企画調整担当課長) 指標の意味についてでございますが、本ビジョン全体では、施策の成果を表す21の指標を設定することといたしております。 例えば、「食の総合産業化による食産業立国の形成」におきまして、「食品工業の出荷額等」の目標達成を目指すことで食にかかわる製造業や流通、販売といった幅広い産業の拡大につながりますほか、「地域における魅力ある観光の新展開」ということでは、観光入込客数などの実績が向上することで観光産業や関連産業の成長に波及することが見込まれるところでございます。 こうした様々な産業群が成長することによりまして、民需が主導する自立型の経済産業構造が構築されていくものと考えているところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(吉川委員)</p> <p>ありがとうございます。1点指摘をさせていただきたいのですが、ただ今の指標に関するご答弁をいただきましたけれども、指標について、施策の反映の結果や様々な統計など現状を踏まえ積み上げたものであり、ビジョンが目指す姿は様々な取組を通じて実現されていくものであって、その結果を表す数値を示すことは難しいのだろうという印象を受けました。</p> <p>しかしながら、公共事業が、例えばこの先も減り続けて、道内経済の規模があまり変わらないということ仮定しますと、結果的に公的依存は少なくなったとも言えるわけでございます。</p> <p>経済部としても同じ考えを持っていただけたらと思いますけれども、北海道の経済のパイ全体を大きくしていく中で、民間の需要の部分も大きくしていくことが、結果的に公的需要の占める比率が下がっていくということであるというふうには思っております。</p> <p>北海道経済を成長させていくということが最大の目標なわけでございますので、それは終わりのない目標といえますか、大変遠いところにある目標だというふうにも思うのですが、であるならば今回のビジョンで10年も20年も先の目標を問うというものではございませんけれども、今回のビジョンでは、まず4年後どこまで到達しているのかという姿を思い描き、それを達成するために、例えば製造業や観光業をどのくらい引き上げるのかとか、ビジョンの目標と指標の設定とが密接に関係していく必要があると考えます。この点について今後も研究、検討をしていただくように指摘をさせていただきます。</p> <p>(五) ビジョンの推進について</p> <p>1 関係者の連携について</p> <p>(吉川委員)</p> <p>続いてビジョンの推進についてでございますけれども、32ページで、経済界や産業界、教育機関、市町村など関係者間の密接な連携・協力のもとにビジョンを推進するとしておりますが、どのような仕組みでどのように連携・協力をしていくお考えなのか、お伺いいたします。</p>	<p>(企画調整担当課長)</p> <p>関係者の連携についてでございますが、本ビジョンの推進にあたりましては、本道の産業振興において、それぞれの立場から役割を担う経済界や市町村などと本道経済の活性化に向けた目標や方向性の認識を共有しながら、取組を展開することが、実効性を確保する上で重要と考えております。</p> <p>このため、経済界や農業団体をはじめ1次産業を含む産業界などの関係機関との会議の場や、各振興局で、市町村や産業界が参加いたします地域経済戦略懇話会などの枠組みを活用いたしますほか、実務レベルでの不断の意見交換などを通じまして、関係者間のより密接な連携・協力を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>2 進行管理について (吉川委員)</p> <p>ビジョンの進行管理についてですけれども、「毎年実施計画を策定し、翌年度取組実績と目標の達成状況を取りまとめ、経済効果の分析・評価を行い、公表する」というふうにしておりますけれども、我が会派の第三回定例議会の代表質問に対します知事のご答弁のとおりこれについて取り組んでいただけると理解してよろしいのか、お伺いいたします。</p> <p>(六) ビジョンの策定手順について (吉川委員)</p> <p>最後になりますけれども、本日報告をしていただきましたビジョンの素案について、道が整えた検討素材をもとに審議会が取りまとめ、今後、経済界など関係機関などの意見を聞くとともに、パブリックコメントによって広く道民意見を伺うということになっていると認識をしております。</p> <p>この度のビジョン策定の手順については、これまでのものとほぼ同様に進められてきたものと考えておりますけれども、4年後、次回以降のビジョンの計画策定にあたっては、道が検討素材をまとめる前に、あらかじめ経済界など関係機関のご意見を聞いておくことなど手順の見直しを考えることも必要であると考えますけれども、それについてのご見解をお伺いをして質問を終わります。</p>	<p>(坂口経済部長)</p> <p>ビジョンの進行管理についてでございますけれども、先ほど委員からもご指摘ございましたとおり、私もビジョンの目的というのは経済の活性化であるように考えているところでございます。前回のビジョンの反省という点で、この議会議論であったところでございますが、指標の達成がゴールではなくて、まさしくその指標を一つのメルクマールとしながら、経済の活性化というのが我々の目的。例えて言えば、木を見て森を見ず、ということにならないように、ということが本ビジョンを議論する際のひとつの教訓であると考えているところでございまして、そのためには施策を効果的に推進する、適切な指標設定というものが重要だと考えているところでございます。</p> <p>また、毎年度の進行管理に当たりましては、委員からのご指摘ございましたけれども、産業全体への効果というところを産業連関表を活用した分析、さらには数値でものを言うのは当然でございますが、現場で企業の経営者が、日々どのようなことにご苦労され、また、今後どのように取り組まれようとしているのか、といったような現場の生の声を聞くという、両面での工夫が必要だと考えているところでございまして、このような指標を使いながらよりきめ細やかな経済効果の分析・評価を行いながら、一層効果的に施策に結び付けるなどして、このビジョンが目指します本道経済の活性化に努めてまいるといふふうに考えております。以上でございます。</p> <p>(経済部長)</p> <p>ビジョンの策定の手順などについてでございますけれども、ビジョンなどの策定にあたりましては、先ほど申し上げました、経済の現場で第一線の方々に取り組んでおられる方、また地域づくりで日々ご苦労されている方々といった経済界や地域などの意見を十分反映させることが重要だと認識しているところでございます。</p> <p>このため、私ども一昨年になりますが、北海道経済政策戦略会議からもご提言をいただきまして、そういうことも考慮するとともに、このビジョンの策定にあたりまして、地域での意見交換会を開催させていただきましたほか、北海道商工振興審議会に、検討部会を設置をしていただきまして、幅広い観点から議論を進めてきているところでございます。</p> <p>今後、様々な経済社会の環境というのは、最近の円高もそうでございますし、ヨーロッパの金融不安等あるわけでございまして、想定外とは申しませんがその変化というものには非常にスピードが速いだろうと考えているわけでございます。そういう経済変化の中で、このビジョンを的確に推進をしていくためには、これまで以上に、多様な視点や政策展開の機動性というものが必要になってくると考えているところでございまして、そういう観点からも、常日ごろから、経済界や地域などと、きめ細かな意思疎通を図り、施策に反映していくことがさらに重要性を増していると考えているところでございます。</p> <p>いずれにしても、今後、ビジョンの策定にあたりましては、ご指摘の点も十分留意をしながら、経済界など関係機関のご意見を十分踏まえて、取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。</p>